



## 困難な時代こそ同窓生・教員のネットワーク形成を

工学研究科長・工学部長  
青葉工業会会長

金井 浩 (通昭56)

本学は、開学以来、研究第一主義、門戸開放、実学尊重を理念とし、近代日本の隆盛と持続的発展を牽引し、世界に先んじ科学技術の地平を拓いてきました。しかし近年、研究者や専門家が対峙すべき課題には、地球環境問題、化石資源の枯渇、グローバル化、少子高齢化、ものづくりの衰退等が山積しています。さらにこの大震災で、従来の工学では、安全安心な社会の構築を達成できなかったということが厳然たる事実として突き付けられました。

そもそも工学とは、「物質的な豊かさ」の探究に加え、安全安心、健康・福祉など「真に豊かな持続可能社会」の創造を目的とする学問です。特にこの震災体験によって得られた教訓から、本学部・研究科の教職員・学生・卒業生の皆さんは、社会に貢献していかなければという強い使命を抱くようになりました。今後、長い歴史の中で培った英知と技術を礎に、人類が抱える大きな課題の根本的な解決に応えていかれることと思います。特に学生さんが大学を卒業・修了して社会に出て定年まで働く今後のおよそ30年間は、この混沌とした転換点の中で試行錯誤を行って、「真に豊かな持続可能社会」を構築するための非常に重要な期間になるものと思います。

これらの課題解決に当たり、人のネットワークを縦横無尽に利用して、研究開発分野の融合を図ることが大切です。そのため、同窓会の役割も大切になります。東北大学工学部同窓会がかつて「工明会」と呼ばれておりました。新制大学発足時に仙台工専と東北大が合併したことにより、仙台工専の同窓会であるSKK同窓会と工明会が大団結し、昭和31年新たな同窓会としてこの「青葉工業会」が発足し、創立57周年になります。その後、工明会は、青葉工業会からの支援の下、工学部教職員と学生の親睦会として存続し運動会などの行事を毎年開催しています。

この青葉工業会は、工明会、学内会員との連携のみならず、学科・系の同窓会および全学同窓会である東北大学萩友会（平成19年発足）との連携を進めております。同窓会にとって、工学部・工学研究科等の同窓生・教員が、ネットワークを形成できるように支援することが重要な仕事です。そのため、①会員データベースの整備、②会員名簿発行（最近では平成22年発行、4年ごと発行）、③会員とニュースの刊行、④先輩が後輩にかたる特別講演会の開催、⑤支部総会・クラス会・同期会の開催支援、⑥会員の再就職支援など、会員サービスの充実に努めております。

これらの事業は、会員の皆様の名簿情報と会費（正会員、学生会員ともに年3000円）に基づいて行われております。今後も諸先輩のご努力や会員の皆さんの結束力と協力で、青葉工業会の目的にもありますように、技術者集団である「会員の親睦を図り」、「我が国工業の進歩発展に寄与し」併せて「後進の誘益に務める」ことを進めたいと思います。

青葉工業会へのますますご理解とご支援をよろしく申し上げます。